



# 善正寺だより

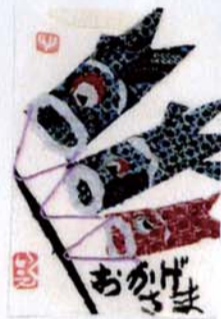
〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 悲しい死にも意味がある 生き残った者には役割がある

五月の空には鯉のぼりが似合います。新年度から小学生が境内の駐車場に集まって集団登校するので、子供たち「おはよう！」と声をかけます。顔は見覚えがあっても名前を知らない子が多くあります。町内の過半数は新たに他地域から移住してきた住民が占め、旧来の門徒という家の子供ばかりではありません。でも、夕方の鐘つきに沢山集まる子供たちは顔なじみですので、孫のようにかわいく思われる子ばかりです。

元気よく「おはようございます」と挨拶できる子も、できない子もいます。すると、上級生が「みんな、ご挨拶しよう」と声をかけます。すると子供たちが声を揃えて「おはようございませす！」「行ってきます！」と挨拶します。朝ご飯を(家族一緒に)食べてくると子は心身ともに目覚めているので、声が出るけれど、朝食も摂らずに急いで家を出る子は中々声が出ないので、市内の学校では「早寝、早起き、朝ご飯」というスローガンを掲げて、健全な生活習慣を子供たちが身につけるよう指導されています。しっかり



朝ご飯を食べてくる子供は学校での授業に集中できていて、学業成績も比較的良好という調査結果があります。

これは仏教徒の生活習慣と同一方向にあります。すなわち、朝一番にお仏壇にお仏飯を供えて、お勤めをします。そして、食前の言葉を唱和して家族そろって朝ご飯を頂く。和やかな食事が終わると食後の言葉を唱和して、感謝のうちに朝食を終了して、それぞれの活動にいそしむ。縁あって日々出逢う人は皆、仏さまの愛しい子供です。

勿論、諸行無常の世の中、何が起こるか分かりません。だからこそ、平凡に見える日常が二度とやり直すことのできない大切な一刻、一刻なのです。

東日本大震災犠牲者の一人、宮城県南三陸町職員、遠藤未希さん(当時二十四歳)は「最大6mの津波が来ます。高台へ避難してください」と最後まで町民に放送を続け、防災庁舎を襲った16mの津波で亡くなられました。娘の死を両親が受容できなかつたのは無理からぬことです。

だが、「私のお腹を借りて生まれてきたわが子ながら、未希はもつと大き

な、多くの人々の命を救うという役割をもって、自らの命を全うしたのでしよう。そう思うようになりました」と母親が述べられた、と講演会で聞かせて頂きました。悲嘆の涙の中に、「娘の死の意味」を母親は発見されたのです。そして、「生き残った者はそれぞれに役割がある」と人生を見直し、「未希の家」という民宿を営み、つらい体験を語り継いでいこうと歩みを始められたのでした。

## ☆行事ご案内☆

### 『門信徒総会』 & 『公開法座』

5月25日(日) 午前10時総会(昼食準備)

午後1時『公開法座』

講師：貴島信行先生(大阪) どなたでもお参り下さい

公開法座終了後、新旧行事さん引継ぎの「打ち上げ会」

#### ◇キッズサンガ

5月10日(土) 午後4時お経、ゲーム5時の鐘つきは毎日、

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開開設5年9か月で14万2千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

15冊目の新刊本『お念仏申してごらん』発売中800円

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定!

2年後に迫りましたが、皆様の熱意とご協力の結集で、意義あるご法要にしましょう!

#### 『三重組の行事紹介』

※5月13日(火) 午前午後『十三日講』中川原・正覚寺様(花岡静人先生)

※6月14日・15日、16日『仏教講習会』(漢見覚恵先生)



写真アラカルト  
鐘つきに集まる  
元気な子供たち



ごえんさん衣装  
で内陣出勤(?)

### 坊守スケッチ

入浴中に私のケータイが鳴った。「こんな遅い時刻に誰かしら?もしかしてイタズラ電話か間違いかしら?」と不審に思ったが、入浴後記録された番号にかけてみた。予想通り相手は出ない。「もしもし、先ほど電話を頂いた者です。出られなくてごめんなさい」と留守テルに録音をした。

5分後再びケータイが鳴った。受話器を取ったが応答なし。しかし辛抱強く話し出すのを待った。しばらくしてから沈んだ声で「あのう先日からメールで身の上相談しているものです」と話し出した。三日連続で私にメールを送ってきた女性がいた。深刻な相談だったので、内容はここでは触れない。彼女の差し迫った状況は手に取るように分かった。最後のメールで「声が聞きたい」と書いてあった。固定電話よりもケータイの方がゆっくり話せるので、私のケータイ番号を教えた。彼女が私にメールを送ったときだけは、善正寺のホームページ。副題に「悩み事なら善正寺へ。何でも気軽に相談下さい」と表示。その結果様々な人から相談を受ける。特に若い人の相談が多い。親や先生、友達にも相談できず、一人で殻に籠って悩む。相談内容は、仕事のこと、職場や学校、家庭の人間関係、子育て、死を宣告された病気、受験の失敗、老後の生き方等、

### 心のマッサージ

多方面に及ぶ。私は普通の坊守で、ただ話を聞くだけでは、相手がどこまで納得してくれるかは疑問。それでもメール相談だけでは埒が明かないので、予定を入れて訪ねてくる人もいます。時間の許す限り丁寧に対応させて頂く。「ボランティアで相談に乗っても相手はその場限り。お寺に何のメリットがあるの?」と言う人もいます。そんな時、先代住職の言葉がふと浮かぶ。「お寺はなあ、お布施に関係ないことをさせてもらってこそ本物!」。亡き老僧の言葉に支えられて、そうせすにはおれない気持ちを優先にする。

相談者の中には「死にたい」「疲れた」「助けて」と、悩みを率直にぶつけてくる人もいます。どこの誰だか分からないが、すぐに飛んで行って抱きしめたいと思う。「今日一日頑張ってきたら?今日のどんな些細な出来事でもいいから、明日私に報告のつもりでメールを頂戴」と約束する。生きるとは、案外こういう事の積み重ねではないだろうか?たとえ自己満足と言われようとも、それが私流のやり方。やがて相談者自らが、話す過程で解決策を見つけて、次の一歩を踏み出す気持ちになれば嬉しい。身体も使いきると、筋肉が固まって血流が悪くなる。楽になるためにはマッサージが必要。心も使いきると



生き辛い。自分の狭い視野で焦って行動すると闇に迷い込む。誰かに話すことで心が楽になる。坊守は心のコリをほぐすマッサージ師!相談者の心が和らいで軽くなることを願っている。

#### ☆寄稿

四日市市 釈妙水  
言葉数 覚えし二歳 春うらら

姫路 釈貞芳  
☆お釈迦様 我が儘言おうと 思ったら 悲しむ人は ありませんか

☆山坂を 右へ左へ 二本杖  
老女が二人 桜目指して

四日市市 釈照充  
☆境内は 三日見ぬ間の 草茫茫

Eさんのいいもの紹介  
☆手はなくも 足はなくも み仏の 袖にくるまる 身は安きかな

(高山市 故・中村久子)  
※幼い頃の凍傷が原因で両手両足を切断した中村久子さん。だるま娘と呼ばれ、見世物小屋で働きながら必死に生きる道を模索して、お念仏の人となりました。自らの人生を全国各地で講演。著書が本堂の親鸞文庫にあります。ご一読下さい。(坊守)

キッズサンガ・杉の子合唱団  
☆5月10日(土) 4時より。お経・ゲーム。夕方5時の鐘つきは年中無休。ご褒美は当り付きガム。

#### 三重組コーラス

5月12日(月) 午後・西勝寺様練習  
☆5月20日(火) 1時・大井手浄蓮寺様『三重組仏婦総会』に賛助出演  
ホットニュース

☆4月19日(土) 午後、『初参式』を受けた赤ちゃん幼児は16名!過去最高人数、仏婦役員さん、門徒さんらのご尽力でも賑やかな初参式になりました。赤飯も例年より一升多めに用意。子供の誕生を地域の皆でお祝いしました。ご協力に感謝します。

☆境内経堂を改装して、お問い合わせご要望の多い新納骨堂としてリニューアル。完成しましたらご案内します。  
【平成26年度前半善正寺主な行事】

※8/23(土) 24(日) 『秋季永代経』(加藤正人師・桑名市)  
※11/2(日) 午後と夜・3(月) 午前と午後(仏婦主催) 『報恩講』(大畠信隆師・大阪岸和田市)  
※11/23午前秋勧進  
※12/6(土) 夜 『お内仏報恩講』  
◇毎月第3日曜日夜7時半より例会

☆カンパ有難う☆  
藤井義明様、青木あや子様、山中ユウ子様、他匿名様より頂戴しました。  
お悔やみ申し上げます

★山下千鶴子様(3月8日亡・87歳)合掌  
☆編集子より ☆  
「善正寺だより」二四五号をお届けします。◇老いも若きも心の病が増えている。釈尊は大医王と言われた。処方箋開拓の要あり。

満開の桜も散り風薫る新緑の季節に参りました。時の移ろひは瞬く間、昨年とも一緒に桜を眺めた人が今年はいない。この私もいつか必ずお浄土へ一期一会の大切さが身に沁みる年頃になりました。全国各地の寺で親鸞聖人御忌法要が勤まっています。善正寺も2年後の平成28年5月15日に予定。2歳の孫は先日三重組の他寺院のお稚見さんデビュー。私もその昔母親に手を引かれお稚見さんを経験。頭上の冠を気にしとぐすりながら長い道のりを行列した記憶があります。昨年から二十一年に一度のご遷宮になった伊勢神宮がブーム。全国各地から沢山の人が訪れていいます。これは日常<sup>ニ</sup>若<sup>カ</sup>の精神を後世に伝える為だというです。お寺でもお稚見さんの出る大法要を数十年に一度勤めることで人心が一新され建物も修復されています。善正寺も500年の長い歴史の中で幾度の戦乱や天災をくぐり抜けてきました。先日発見された江戸時代末期の古い駒札が當時を物語っています。相次ぐ大地震に火災、モッキン等生きているのがやっとの貧しい生活の中で、人々は心の拠りどころを浄土真宗に求め、お寺の復興に尽力下さいました。親鸞聖人とご先祖方のご苦勞に感謝し、この恩徳に報いることが大法要を勤める意味です。私の時代でなければいつか出るの気概を胸に刻んで、これからも日々精進を重ねて、その姿を後世の人に伝えたいと思います。5月25日(日)午後5時開法座、貴島信行先生(大阪)をお迎えします。皆様お誘い合わせしてお参り下さいませ。合掌

平成二十六年 五月

善正寺坊守 拜